

# 平成25年度 社会貢献者の記録



公益財団法人  
社会貢献支援財団  
Foundation for Encouragement of Social Contribution

平成25年度  
社会貢献者の記録



公益財団法人

社会貢献支援財団

Foundation for Encouragement of Social Contribution

# 目次

|                   |     |
|-------------------|-----|
| まえがき              | 003 |
| 表彰選考委員プロフィール      | 004 |
| 式典次第              | 006 |
| 社会貢献者表彰とは         | 027 |
| 受賞者紹介             | 028 |
| 人命救助の功績           | 030 |
| 社会貢献の功績           | 038 |
| 特定分野の功績           | 112 |
| 東日本大震災における救助活動の功績 | 118 |
| 資料編               | 144 |

# まえがき

平成 25 年度の社会貢献者表彰は、53 件の社会貢献者の皆様を表彰させていただきました。受賞者並びに表彰の候補者の推薦者の方々、そして事業の助成をいただきました日本財団はじめ、ご協力を賜りました関係各位の皆様には厚くお礼申し上げます。

本年度は、「人命救助、社会貢献、特定分野（海への貢献）、東日本大震災における救難活動」の 4 部門の功績につきまして、推薦いただいた 234 件の功績の中から、表彰選考委員会により 53 件（人命救助 3 件、社会貢献 36 件、海への貢献 2 件、東日本大震災における救難活動 12 件）の皆様を選考いただき、表彰者を決定いたしました。

選考委員会の委員の皆様には、候補者のいずれもが素晴らしい善行活動をされている方々の中から選考いただくため、大変難しいお仕事を例年お願い申し上げます。

表彰式典は、平成 25 年 11 月 25 日（月）、帝国ホテル東京で開催、700 名程のご来賓と共に、受賞者の皆様をお祝い申し上げ、日本財団賞をお贈りいたしました。

火災や事故などに遭遇し、自らの身命の危険を冒して救助や救援をされた方々、困難な状況の中で社会や人々の幸福のために尽くされた方、海の環境の保護に尽くされた方、そしてあの日から 2 年目となります東日本大震災で救難活動をされた方など 15 歳から 95 歳の受賞者の皆様の活動を、平成 25 年度社会貢献者表彰記録集としてここにまとめさせていただきました。

受賞者皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げますとともに、当財団の表彰事業につきまして、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 社会貢献支援財団

# 表彰選考委員プロフィール



元財務大臣

**塩川 正十郎**

選考委員長

1921 年生まれ

学校法人 東洋大学総長ほか

著書：「佳き凡人をめざせ」「ある凡人の告白」ほか多数



ノンフィクション作家

**吉永 みち子**

1950 年生まれ

著書：「気がつけば騎手の女房」「性同一性障害」「26 の生きざま」

ほか多数



脚本家

**内館 牧子**

1948 年生まれ

東京都教育委員会 教育委員ほか

脚本：「ひらり」「てやんでえッ!」「私の青空」「毛利元就」ほか多数



歌手 俳優

**杉 良太郎**

1944 年生まれ

日本ベトナム特別大使 ベトナム日本特別大使

著書：「いいってことよ」「これこそわが人生」

「人生すきま風のごとく\_\_愛に生き、愛に傷ついて」



元国税庁長官

**大武 健一郎**

1946 年生まれ

関西大学客員教授ほか

著書：「平成の税・財政の歩みと 21 世紀の国家戦略」

「税財政の本道一國のかたちをみすえて」ほか多数

## 式典次第

### ◆表彰式

- 10:30 開 式  
会長挨拶  
表彰選考委員会 委員長 挨拶  
表彰状並びに副賞の贈呈  
受賞者代表挨拶
- 12:00 閉会

### ◆祝賀会

- 12:20 開 宴  
13:30 閉 宴

(平成 25 年 11 月 25 日 於帝国ホテル東京)

## 会長挨拶

皆さん東京にはるばるお集まりくださりまして本当にありがとうございます。私たちも大変喜んでおります。

先ほど 53 件の皆さんの顔写真が大きく出ていました。私は「なんて素敵な人たちなんだろう。立派な方たちの顔とはこういうものなのだ」と思いました。

皆さんは良いことをして、そのご褒美である様な良い顔になられたのだなと思っています。

私たち財団の者が、候補者の方にお目にかかりまして、今年は 53 件になったわけですが、中には辞退なさるかたもおられまして、「表彰されたくてやっているのではない」と、これが日本人と外国人との違うところかなと思います。

自分がやりたいからやっているのだ、世のため人のためは勿論だけれど、自分がやってみて本当に嬉しいからここまで続いたのだ、とおっしゃる方がいらっしゃいまして、それは本当にそうだろうなど。

外国における表彰と日本における表彰はどうもその辺が違うらしい、というのが私のこの仕事をさせて頂いている中での感想でございます。

推薦がたくさんありまして、選ぶのに大変なんですね。出来ればみんなに差し上げたいのですが、このお金は私たちが稼いでいるわけではありません、モーターボートレースを通じて日本財団から頂いております。自分たちでも募金を集めてもっと増やしたいな、と思っていますが、まだそこまでは参りません。

私たちが表彰式なんていっておりますが、皆様を表彰するようなおこがましいことは出来ないと思っております。やっております主旨は、皆さんがした立派な事を世の中の人に知らせる、そうすると世の中の人には元気が出て、自分もやろうと思うのではないかな。わたしなんかもそうなのですが、世の中の人が良いことする、良いことをした人同士がその体験を話し合う、といったことのお役に立てればと思ってこうして皆様お集まり願ってお話を伺って、そして来年またそういう方に集まってくださるようにしたいなと思っております。

皆様がなさったような良いことを見て、私たちの子どもがそれを真似する、また孫がそれを真似する。そういう日本に繋がって行けばいいなと思います。

そうしてみると実は日本はもうそうなっているんですね。何百年の積み重ねがあって、我々は自然に良いことをしているんですね。褒められようと思わずに。そういう日本が出来上がっているのを守り育てていかなければいけないな、という気持ちでこんなことをやらせて頂いております。

今日は皆さんおめでとございました。

お集まりくださりましてありがとうございました。



公益財団法人 社会貢献支援財団  
会長 日下 公人

## 選考委員挨拶

ただいまご紹介に預かりました内館牧子でございます。本日、塩川委員長がご欠席のため申し付かりまして、私がひと言、選考経過を含めてご挨拶申し上げます。

本日表示を受けられます53件の皆様、本当におめでとうございます。今年度は234件の推薦がございました。そこから約五分の一にしなければいけないという、これは大変難しいことです。毎年のことながら、選考会が終了しますと疲れ果てます。しかしながら、こんなにもただ社会のために尽くして下さる方々が多いという事実は本当に嬉しく、有難いことだと思います。

社会貢献者表彰は、身を挺して活動されながらなかなか人目に触れることが無かったり、報われる機会が少なかったり、そういう方々の活動になんとかお礼を申し上げたい、という気持ちで昭和46年に社会貢献支援財団がスタートされました。

今年度の表彰は四つの功績に分れております。一つは人命救助の功績です。海難火災多くの事故や犯罪から他人を助けたり、未然に防いだりという方々は、私たちが想像するよりはるかに多いことに毎年驚かされています。身を挺したばかりか、ご自身の命を失われた方もけっして少なくはありません。二つ目は社会貢献の功績です。これは、困難や危険を承知で社会と人々のために力を尽くし続けている方々です。そして三つ目が特定分野の功績として海の安全や環境保護に身を削っておられる方々です。そして四つ目が東日本大震災における救難活動、それから復旧復興に尽くされた方々です。

ただいま申し上げました通り、推薦案件は落とせないものばかりですので、選考会は毎年紛糾します。今年には更に抜本的な意見も出ました。と申しますのは、この選考を続けていると実感するのですが、全国には他人の目に付かず、またこの社会貢献支援財団の表彰も知らず、推薦さえされずに、それでも懸命に力を尽くしている方々がたくさんいらっしゃるということです。それを思いますと、選考の基準をどこに置けばいいのかという難問にあたります。かといって機械的に基準を決め「はい、基準を満たしているからOK」、「はい、基準を満たしていないからダメ」という訳にはいきません。毎年、選考委員たちからは、「ちょっと待って。この人のこういうところは大きく評価すべきよ」とか「このグループのここは他では真似できないから、何としてもお礼を申し上げたい」とか必ず出て来てだれも譲りません。

一方、気付かれなくて推薦さえされない方々をどう評価すべきか、社会貢献



支援財団としてどう感謝を表すべきか、という思いも非常に深いわけです。今年の選考会では、その問題でかなり意見が戦わされました。実際、受賞者の中には、「私たちよりすごく頑張っておられる方が、全国に世界中にいらっしゃるのに、申し訳ありません」とおっしゃる方が必ず毎年いらっしゃいます。でも、それは大きな勘違いです。皆様がなさったことは誰にでも出来る事ではありません。私たちは是非お礼申し上げたいのです。問題はたったひとつ、全国の、また全世界の、ひそかに頑張っている全体的な方々を、私たちは把握できないという、その一点です。これはあらゆる表彰がそうだと思います。

ただ今回、私はふと思ったことがあります。目に付かなかったすべての方々に、そして今回表彰さえ知らなかったすべての方々に報いるために、今回表彰されました皆様には、今後も活動を止めることなくお続けいただきたいとお願い申し上げます。

社会に貢献される全体的な方々は、恐らく目に付かなくともまったく構わないと思っていらっしゃるでしょう。表彰なんていうものは単なる結果であって、目的は誰もが共通して人のためになりたい、人を助けたい、ということであろうと思います。

今回表彰された方々がずっと活動を続けてくださることは、表彰されなかった方々の目的をもともに満たすことになります。そうになりましたら、社会貢献支援財団としましてもこれほど嬉しいことはございません。私たち自身も更に皆様と一緒に力を尽くしていこうと思わされます。

53件の受賞者の皆様改めまして、皆様のお力に関し心から感謝を申し上げます。どうか今後とも社会のためにそして困っておられる方々のためにお力をお貸しくくださいますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

公益財団法人 社会貢献支援財団  
選考委員 内館牧子

## 表彰者代表あいさつ

社会貢献者表彰を受賞した皆様の代表としてひとこと、ご挨拶を述べさせていただきます。本日はこのような大変名誉ある賞をいただき、本当にありがとうございます。受賞者一同お礼を申し上げます。また関係者皆様方々へ、心より感謝いたします。



私は、仮死状態で生まれました。その後遺症で脳性まひとなり、手足に軽いまひや言語に障害が残りました。障害はありますが、子どものころからスポーツは大好きで中学時代はハンドボール、社会人になってからは陸上、水泳をしていました。そして現在は、脳性まひ者による7人制のサッカーの活動をしています。

脳性まひ7人制サッカーは、立った状態で行う脳性まひスポーツの中で、唯一の団体スポーツ競技です。また、競技の上では、普通のサッカーのルールと基本的に同じですが、オフサイドルールが無く、片側まひ者のために、片手でのアンダースローインが認められています。ヨーロッパを中心に行われていましたが、徐々に世界に広がりました。現在は、アジア大会、ヨーロッパ大会など各大陸別国際大会や世界選手権大会が行われ、1984年からパラリンピックの正式種目となりました。

この脳性まひ7人制サッカーは、パラリンピックの正式種目ですが、未だ日本はパラリンピック出場を果たしていません。

私が現役の選手だった頃、パラリンピックを目指し、夢中になってボールを追いかけていました。パラリンピックに出ることが夢でした。

残念ながら、選手としては、その夢を果たすことができませんでした。

しかし、みなさまご存じのとおり、2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定しました。

7人制サッカーにおいても、東京オリンピック・パラリンピックの実施競技となり、我々日本もホストカントリーとしてパラリンピックへの出場が予定されています。多くの方々に7人制サッカーを知ってもらいたい良い機会になるでしょう。

現在、私は、体に障害のある小学生や中学生にサッカーを教えています。この子たちが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで、活躍、躍動すると信じています。また、そのような未来に携わる、関わること、この上なく喜びを感じています。

私自身は、自分の好きなことに情熱を傾け、活動をしてきたに過ぎません。その活動が、このような形で認められたことは、とてもうれしいことと感じています。簡単ではありますが、受賞者代表の挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

神 幸雄

## 表彰式











# 記念写真



- |        |        |        |       |       |           |        |        |       |        |               |        |       |       |
|--------|--------|--------|-------|-------|-----------|--------|--------|-------|--------|---------------|--------|-------|-------|
| 森田 祐和  | 大浜 あつ子 | 神 幸雄   | 河上 雅夫 | 藤田 善史 | カサノバ エクトル | 香月 武   | 野呂 美加  | 奥地 圭子 | 橋本 明   | スリット・ソノヴァン・ソイ | 民谷 喜美子 | 三浦 榮一 | 馬塚 丈司 |
| 遠藤 知恵子 | 田中 千草  | 菅田 則芳  | 白田 玲子 | テイ・レイ | 山本 宗夫     | 藤田 京子  | 山北 真由美 | 小林 普子 | 安田 光一  | 中田 ケンコ        | 秋田 稔   | 溝口 結子 | 福森 伸  |
| 竹内 亘   | 小林 慎太郎 | 河野 よ穂子 | 河野 正二 | 久保 宏記 | 井上 勝江     | 五十洲 廣明 | 辻井 秀治  | 平塚 一郎 | 移川 仁郎  | 村田 涼子         | 小豆島 正典 | 田島 良昭 |       |
| 大網 さおり | 勝又 三成  | 浅見 健一  | 成富 真介 | 高橋 芳喜 | 青木 孝文     | 早川 会   | 田村 満   | 桐ヶ谷 寛 | 安井 美貴子 | 中井 聡          | 内藤 麗   | 福本 千夏 |       |

## 来賓挨拶

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介がありました、日本財団の尾形でございます。

本来ですと、ここで日本財団会長の笹川陽平が来てご挨拶する予定だったのですが、急遽ミャンマーへ行っておりますので、代理を務めなさいとのことでご挨拶申し上げますことになりました。

まず初めに、今日受賞された方々に心からお喜び申し上げます。日本財団は色々な仕事をしておりますが、私どもの底辺に流れているのは「世の中を変えていきたい、世の中を良くしていきたい、国民生活の改善に寄与したい」というのが我々日本財団の気持ちでございます。今日、受賞された方々は本当に素晴らしい仕事をされております。

この社会貢献支援財団は、そもそも国や公的機関などから表彰を受けなくとも、街のどこかで人知れず人のために世の中のために仕事をしている方々を発掘して表彰するのが仕事でございます。

内館委員からお話もございました。この悩みは全ての良い人たち、全ての仕事をしている方々を全員表彰出来ない事でございます。でもやはり今日受賞して頂いた方々が引き続き仕事をして頂くことによって世の中が良い方向に変わるだろうと思います。

日本人がもともと持っていた人を思いやる気持ち、人のために仕事をする姿勢、これは日本人の持っている世界に誇れる DNA だと私は思っております。

今日受賞された方々を脇で支えられていたご家族の方々、そして関係者の方々にも心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

また難しい選考をしていただいた選考委員の先生方、本当にありがとうございます。大変でございましたでしょう。毎年毎年この日になると皆様のご苦労を感謝する気持ちで一杯でございます。来年もどうぞよろしくお願い致します。

それと、この式典を運営してくださいました日下会長はじめ皆様方に心から感謝の意を表したいと存じます。本当にありがとうございます。

今日は、ありがたくも安倍総理大臣の令夫人が来賓としてご出席いただきました。ありがとうございます。お陰さまで皆様方が本当にこの賞が榮譽ある賞だということを心から肌身で感じたと思います。どうぞ来年もよろしくお願い致します。

さあ、長話は止めましょう。美味し物がたくさん待っておりますし、お酒もたくさんございます。今日は心行くまで皆さんとどうぞ仲良く、そして情報の交換などお話をして頂きたいと思っております。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。心から感謝申し上げます。

日本財団  
理事長 尾形武寿



## 乾杯のご発声

皆様、本日は平成 25 年度社会貢献者表彰式典にお越しくださり、本当にありがとうございます。受賞者の皆様には本当におめでとうでございます。

今回は私のようなものが乾杯の挨拶をさせて頂くことに恐縮しておりますが、本財団の評議員そして理事でいらっしゃいました三宅久之先生、米長邦雄先生が立て続けにお亡くなりになってしまっただけで心よりご冥福を申し上げますとともに、本日このような大任を担わして頂いたことをしっかり務めさせていただきたいと思っております。

さて、こうして改めて考えてみますと、東日本大震災で亡くなられた方の命も諸先生方の命もそして皆さんの命も何と重くてそして儚いのだということです。

まさかという大津波にさっきまで輝いていた命が一瞬でさらわれてしまった。今なお世界のあちこちで色々な災害、そして戦争、飢餓といったものでたくさん命が失われつつあります。災害や戦争、そういったものの力のなんと大きなものでしょう。それに対して私たち個人個人の力のなんと小さなことでしょうか。「何にもできない…」そう思うことが私、とっても多いです。でもそれでも「なにか出来ないか…」と思う時、こうして活動されている方々がいます。人命救助、社会貢献、海への貢献、東日本大震災の救難活動の各受賞者の皆様、すなわち皆さんのことです。わたしも微力ながらいつもそのひとりでありたいと思っております。いつも少しでも心に残る言葉を書いていきたい、そして歌なども歌っていきたくと頑張っておりますが、いつも伝わらない、なんて力及ばないのだろう、ひとりでもひとりの人を助けるようなことが出来ているのだろうか、考えずにはいられません。

皆さんもそんなお気持ちになれることが多いのではないのでしょうか。でもそのような活動をすることに意味がないかということ、そんなはずはありません。それは否です。

この会場を埋め尽くすたくさんの人々を見てください。これだけの人々が世の中を良くしよう、世界を良くしよう、たったひとりの命を助けようとこれだけ活動していらっしゃる。どれだけご苦勞な事かと思っております。個人の力の無力さに悩まれる方も多いかと思っております。けれど必ず続けて下さい。皆さんの下にまた更に無数の善意の人たちがいます。必ず世界を変えようと思っている人たちがいます。どうぞそれを小さな波で終わらせず、大きな波にしようという志を持ってください。私たちには、ひとりひとりには小さな力かもしれないけれども、失われた命をつなぐ義務があると思っております。失われてしまった先人の志を継ぐ義務があると思っております。



## 祝賀会

お願いがあります。どうぞそれを小さなさざ波で終わらせないで、この場で、皆でそれを一つの大きな波にして、逆に私たちの志しでこの国を洗い、世界を立て直そうと今日を誓う日にさせて頂けたらと思います。

この場に集まった皆さんと共に世界を変えたいと誓い合いたいと思います。どうぞこれを持って乾杯とさせて下さい。乾杯。  
本日は本当におめでとうございます。

公益財団法人 社会貢献支援財団  
評議員 さかもと 未明





# 社会貢献者表彰とは

## 平成25年度社会貢献者表彰の概要

### 【募集告知】

平成25年1月中旬より、ダイレクトメール発送、新聞への告知広告、当財団ウェブページ等にて

### 【対象となる功績】

- ・人命救助の功績
- ・社会貢献の功績
- ・特定分野の功績（海の貢献賞）
- ・東日本大震災における救難活動の功績

### 【候補者について】

- ・候補者には、年齢・職業・性別・信条・国籍等の制限はない
- ・候補者は、同種の功績により当財団の「社会貢献者表彰」を受賞されていない方とする。
- ・候補となった功績と同一または同種の功績により、既に国の栄典（叙勲、褒賞）または・大臣表彰等を受賞されている方は、選考の際、後順位とされる
- ・「人命救助の功績」については、原則として、平成23年4月1日以降の功績を対象とし、この功績の場合のみ、当該行為により亡くなられた方を含む

### 【選考について】

選考委員会開催日：平成25年6月4日 第一ホテル東京

### 【受賞者】

受賞者：53件

応募総数：234件

### 【表彰式】

開催日：平成25年11月25日 帝国ホテル東京

受賞者には表彰状、副賞として日本財団賞（賞金）、記念品を授与する

